

OSCE再評価のシステム構築

○阿部伸一、井出吉信、矢島安朝、伊藤太一、
佐野 司、大久保真衣、一戸達也

教育改革

診療参加型カリキュラムの導入→

実践



共用試験の導入



OSCE



CBT

形成評価 < OSCE < 総括評価

形成評価 < OSCE = 総括評価

システム仕様

OSCE試験の評価を複数の試験官がPC入力⇒そのリアル映像・音声を電子ファイル(圧縮映像音声ファイル)で記録
⇒年度、講座名、回数、番号の固有の名前でデータベースサーバに登録

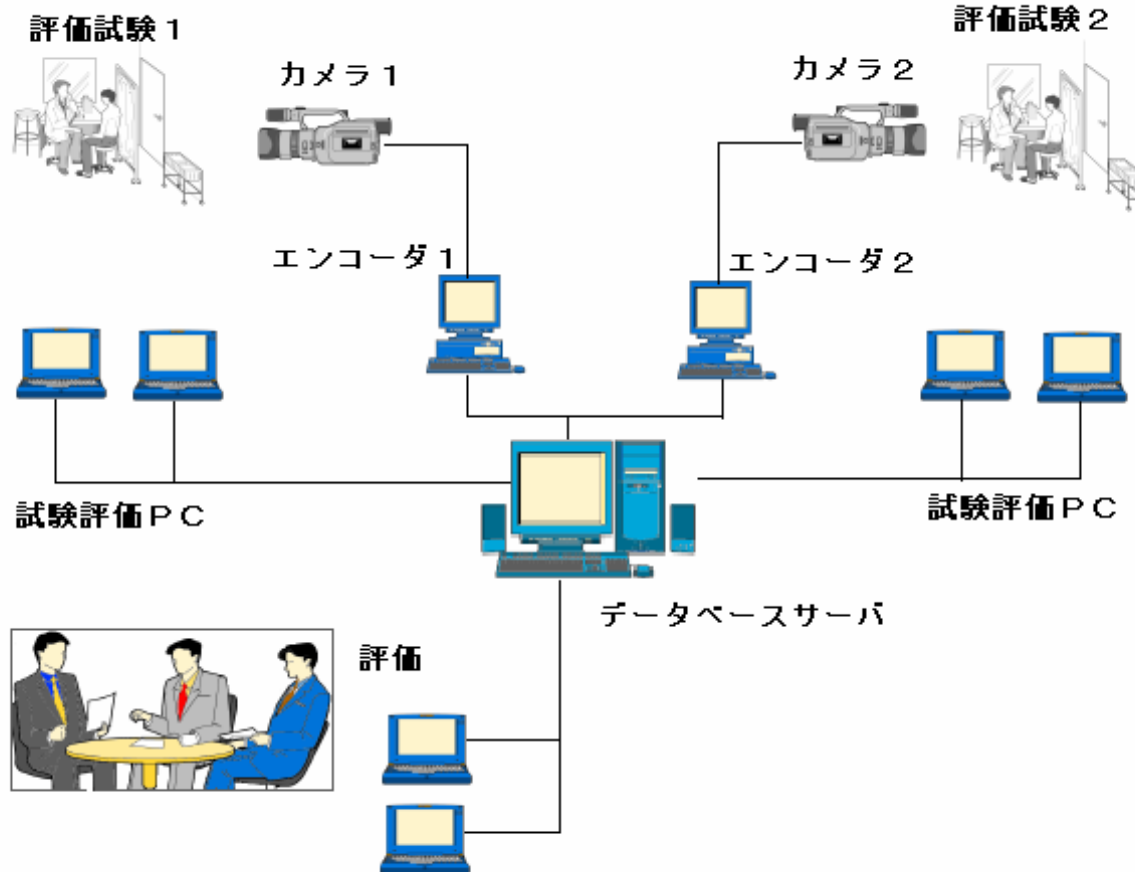
試験官の評価点数に隔たりがある場合⇒再評価

◎データベースに年度、講座名、回数、番号からアクセスして、登録済みの映像・音声と評価結果をPCの画面上に呼び出す。

再評価官は再評価シート上(PC画面内)で評価すると同時に試験官、学生に対してその正当性を示します。

◎登録済みデータの処理⇒不要になった学生試験データ(評価データ、実試験映像・音声)は手動で削除します。

システム概念図



記録・配信のデジタル化

映像圧縮フォーマット

- (1) MPEG-1, 2, 4 (2) ウィンドウズメディア ウィンドウズの専用規格。品質も良くその容量も小さい。
⇒エンコーダ・データベースサーバのVODは上記全てのフォーマット規格をサポート。

システム構成

- (1) 記録系: 映像・音声の記録、データベースサーバに登録 評価シートデータをデータベースサーバに登録
(2) 再評価: 年度、講座名、回数、番号らデータベースサーバに登録済みの試験評価データを呼び出します。
実試験の映像・音声を、再評価シートで再評価します。

